

第6回庄原市行政評価委員会 会議録（摘録）

1. 開催日時 令和5年10月31日（火）
開 会：13時30分
閉 会：14時42分
2. 開催場所 庄原市役所 5階 第一委員会室
3. 出席委員 清水 孝清 委員（委員長） ・ 吉本 トキコ 委員
藤元 晃一 委員 ・ 藤野 明美 委員
澤 一枝 委員
4. 欠席委員 飯田 一生 委員 ・ 田原 守人 委員
5. 出席職員
企画振興部 いちばんづくり課長 足羽 幸宏
商工観光課長 堀井 慎一郎
商工観光課 商工振興係長 関 里美
総務部（事務局） 行政管理課長 関 浩樹
行政管理課 行政管理係長 奥山 寿春
行政管理係 成林 拓矢
6. 会議次第 別紙のとおり

第6回庄原市行政評価委員会次第

令和5年10月31日（火）13：30から
庄原市役所 5階 第1委員会室

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 評価意見の総括

(1) ドローン活用推進事業

資料1

(2) 庄原市サテライトオフィス誘致促進事業補助金

資料2

4. 今年度の評価について

資料3

5. その他

6. 閉 会

会議経過

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 評価意見の総括

(1) ドローン活用推進事業（担当課：企画振興部 いちばんづくり課）

総括意見	評価：終了
本事業によるこれまでの取組の成果として、市内において民間事業者によるドローンの活用が進んでおり、「ドローンの普及・啓発」という事業開始当初の目的は達成されたものと言える。このことから、本事業については終了し、今後は、ドローンを活用した地域課題の解決に向けた新たな活用方法の検証へとステップアップされたい。現在市が保有する機体については、引き続き適切な管理のもと活用されたい。	

委員長 終了が6名、縮小が1名という意見だった。担当課としても終了の評価をしている中で、こういった結果になった。総括意見としては以上のとおりとしてよろしいか。

— 異議なし —

委 員 「現在市が保有する機体について、適切な管理のもと活用されたい。」という文言を入れている。購入の際に国の交付金を活用したという説明もあったので、きちんとした管理をお願いしたい。

担当課 国の交付金を充てており、処分の際には国の協議をしなければならないことになっているため、引き続き適正な管理をしていく。本事業は終了の方向とするが、地域課題の解決に向けた新たな活用方法の検証については、引き続き取り組んでいきたい。

委員長 ドローンについては、今後も技術が進化していくものと思われる。本事業は、民間企業にドローンを活用していただくきっかけになった。民間企業にもドローンが普及しているため、農事組合法人等でも活用されている。今後もドローンの活躍に期待したい。本事業に限らず、新たな事業に取り組むためには予算が必要になるので、役割を終えた事業は終了し、新たな取組に予算を充てていくことが良いように思う。

ドローン活用推進事業に関する評価意見の総括は、以上とする。

(2) 庄原市サテライトオフィス誘致促進事業補助金（担当課：企画振興部 商工観光課）

総括意見	評価：拡充
<p>本事業は、空き家の活用や関係人口と新たな雇用の創出に資するものである。現行では、速やかに使用できる既設の貸しオフィスを求める企業側のニーズとマッチしていないという課題があるため、本事業が本市へのサテライトオフィス設置の導因となるよう、企業側のニーズに合致した補助対象に見直すとともに、企業へのPRを強化されたい。加えて、これまでの事業実績と本市への経済効果や雇用の創出状況を踏まえ、今後、市が誘致したい業種と応募要件を明確にし、対象者のニーズに合った事業を直営または委託によって行うなど、新たな雇用や移住者の増加といった波及の効果が生まれるよう事業を拡充されたい。</p>	

委員長 現行どおりが3名、拡充が3名、縮小が1名という結果だった。現行どおりと評価された意見の中にも、拡充へ向けた検討を求める内容もあったため、本委員会の意見として「拡充」とした。総括意見について、以上のとおりとしてよろしいか。

委員 現行では、企業のニーズとマッチしていないという課題がある。総括意見としては、ニーズにマッチした補助対象となるよう見直しを求める内容となっているが、担当課として、現時点で見直しを考えている部分の有無について伺う。

担当課 ご指摘の部分については取り組んでいきたいと考えている。「すぐにオフィスを使いたい」というニーズにお応えするために、既設のオフィスを整備する必要性も感じている。今後、ニーズにお応えできるよう補助金要綱の見直しに取り組みたい。

委員 他の自治体においても同様な事業に取り組まれる中、本市を選んでいただけるよう、企業側へのPRにしっかりと取り組んでもらいたい。また、意見の中に貸しオフィスの直営または委託の検討といった内容も含まれていたが、このことについて担当課の意見を伺う。

担当課 補助金の事務そのものについては、引き続き当課で行うが、企業誘致に向けた市場調査や企業側の要望をお聞きする窓口などについては、専門性の高い企業や既にサテライトオフィスを設置されている企業、あるいは、空き家の活用に詳しい方などとの連携の中で、事務の一部を委託することを検討していかなければならないと考えている。

委員 今の説明にあったように、事務の一部を委託することで、少しでも企業側へのPRが強化されると良いと思う。商工会議所との連携はいかがか。

担当課 これまでも、働く場の確保に関するものとして「庄原でいきいき働く協議会」を商工会議所、ハローワーク、庄原市との連携によって立ち上げているため、今後も同様

に連携をとっていきたい。

委員 最近では、インターネットを使った仕事も多いので、実際に口和町にサテライトオフィスを設置された企業では、本社が広島市内にあり自然に触れ合う機会が少ないため、福利厚生の一環としてサテライトオフィスを活用した芋ほりなどを楽しまれていた。一方で、オフィス周辺の草刈など施設管理が大変な面もあるが、地元住民に費用を払って管理をお願いすることで、雇用とまでは言えないかもしれないが、住民との連携が生まれている。是非ともこういった事業を続けていただきたい。

担当課 当課が課題と感じていることについて、委員の皆様からも課題との指摘をいただいた。いただいたご意見をもとに、今後の本事業の在り方を検討してまいりたい。

委員長 庄原市サテライトオフィス誘致促進事業補助金に関する評価意見の総括は、以上とする。

4. 今年度の評価について

— 事務局より今年度評価を実施した事業を振り返り説明 —

(1) 庄原市出前トーク（担当課：総務部 行政管理課）

担当課評価	現行どおり
委員会評価	現行どおり（現行6名、拡充1名、縮小0名、終了0名）
総括意見	<p>本事業は、市民が市の実施している事業内容を知る機会となっており、啓発・啓蒙の意味で大切な事業である。また、事業実績からも市民のニーズに合致しており、今後も事業を継続していく必要がある。</p> <p>事業の継続にあたっては、社会情勢や市民のニーズに合わせたメニューの見直し、更新を行うとともに重要度が高いメニューを積極的にアピールするなど、より多くの市民に利用されるよう、PRに努められたい。</p>

(2) 国際交流事業（しょうばら国際交流協会負担金）（担当課：生活福祉部 市民生活課）

担当課評価	現行どおり
委員会評価	現行どおり（現行5名、拡充2名、縮小0名、終了0名）
総括意見	<p>本事業は、本市が多文化共生のまちづくりを目指していく上で、市民の国際感覚を豊かにするために必要な事業である。また、人口減少や高齢化による働き手不足が懸念される中、今後、労働者または技能実習生としての外国籍の方の転入が多くなることも考えられるため、日本語教室や市民との交流事業を継続し、受け入れ体制を整えておく必要がある。</p> <p>外国籍の方の受入においては地域住民の理解・協力が重要であるため、本事業を積極的に発信し、中高生を含めた幅広い世代の住民との交流を促すとともに、相互理解が深まるよう取組を継続していただきたい。</p>

(3) 庄原市定住促進奨励事業（担当課：企画振興部 自治定住課）

担当課評価	拡充
委員会評価	拡充（現行0名、拡充6名、縮小0名、終了0名、その他1名）
総括意見	<p>本事業は、本市への移住者の拡大と空き家活用の両面に資する重要な事業である。人口減少対策の観点からすると、現に定住されている方への支援も重要であることから、一定の制限を設けた上で市内転居者も事業対象に含まれるよう拡充されたい。その上で、増加傾向にある空き家のさらなる活用を促進するため、中古住宅の取得・改修を中心とした奨励金額の配分の見直し等を検討されたい。併せて予算の増額に努められたい。</p>

(4) 庄原市農林施設整備事業補助金（担当課：環境建設部 建設課）

担当課評価	現行どおり
委員会評価	現行どおり（現行4名、拡充2名、縮小0名、終了0名、その他1名）
総括意見	<p>農業従事者の高齢化や担い手不足、さらには自然災害や鳥獣被害など、農地保全に関する課題が山積している中、本事業は、農林施設の改良または災害復旧に関する受益者負担を軽減する制度として有効であり、今後も必要な予算を確保した上で事業継続されたい。ただし、受付期間が短いうえ、工事着手までに時間がかかるという課題があるため、農繁期に間に合わせるができるよう、広報時期や受付期間の見直し等、検討されたい。</p>

(5) 庄原市自主防災組織活動補助金（担当課：総務部 危機管理課）

担当課評価	拡充
委員会評価	拡充（現行1名、拡充6名、縮小0名、終了0名）
総括意見	毎年全国各地で自然災害が頻発し、住民の防災意識を高めることが重要視されている中、本事業は自助・共助の面から住民の防災意識の醸成と、災害に備える体制整備の促進に効果的な事業であり、申請件数が増加傾向にあることから、予算総額の拡充を検討されたい。また、少子高齢化により、防災組織の立ち上げや組織の活動状況における地域差が懸念されるため、研修会への参加や訓練の実施を補助金の利用条件に追加するなどし、更なる防災意識の高揚につながる事業となるよう啓発・啓蒙をお願いしたい。

(6) 庄原市芸備線利用助成金（担当課：生活福祉部 地域交通課）

担当課評価	現行どおり
委員会評価	拡充（現行5名、拡充2名、縮小0名、終了0名）
総括意見	J R 芸備線は沿線住民の通勤・通学に必要な交通手段であり、今後も継続させる必要がある。先般、備後庄原駅から備中神代駅区間について J R 西日本より国に対して再構築協議会の設置が要請され、今後、同区間の在り方に関する議論が進められるものと予想される。こうした中、本事業は J R 芸備線の利用を促進する効果を有しており、今後も事業継続されたい。その上で、日常的な利用もさることながら、周辺地域のイベント等と本事業や他の事業とを連結させ、沿線地域に限らず市内外からの利用も促進されるよう、広報手段の工夫と関連事業の予算拡充を検討されたい。

— (7) ドローン活用事業、(8) 庄原市サテライトオフィス誘致促進事業については省略 —

委員長 本日は、令和5年度行政評価委員会の最終回となるので、各委員から一言ずつコメントをお願いしたい。

委員 本委員会の全体を通じて、なかなか事業の理解ができないこともあった。次年度の委員会に向けて、広報紙などから行政の情報を取り入れていきたいと思う。

委員 初めて委員になって、全くわからない状態であった。資料を読んでも言葉の意味がわからないものもあったので、インターネットで調べたり市のホームページから検索してみたりした。これほどまでに市の事業を知らなかったのかと気づいた。担当課からの説明を聞いて理解が進んだものもあり、良い機会になったと感じている。

委員 委員2期目となり、前期の委員会で評価した事業との関連性が見えてきた。評価した事業については、普段からテレビのニュースや住民のニーズなどの声に注目するよ

うにもなった。個人的に来年度は子育て世代に関係する事業の評価ができれば良いと思っている。

委員　はじめは本委員会の存在も知らなかったが、委員会を通じて少しずつ市の事業に興味を持つこともできたと感じている。

委員長　何百とある市の事業の中で、今回は8事業を評価した。市が市民のために様々な方向性を持って事業を実施している中、評価が難しい面もあったと思う。
行政評価の結果はどのように公表されるか事務局に伺いたい。

事務局　広報しょうばらや市のホームページに掲載したいと考えている。

委員長　今年度は、委員会選定事業を含む8事業を評価してきた。中には以前評価したことのある事業もあったので、なるべく評価したことのない事業を選ぶ方が良いのではないかと思う。そういった意味でも、今後も委員の皆さんの関心のある事業を評価していきたいと思う。可能であれば、委員選定事業を6事業に増やすなど、事務局で検討いただきたい。プランナーモニター（以下、プラモニとする。）意見の参加者が増え、もう少し意見を反映できると良いと思う。

委員　プラモニ意見を参考に自身の意見をまとめた事業もあった。中には具体的な意見を書かれた方もいらっしゃるので、たくさんの意見が聞けると良いと思う。

事務局　プラモニ登録者それぞれの興味関心がどこにあるかという点もあるが、多くの方の意見が委員会に反映できるよう工夫していきたい。

委員長　今年度の振り返りは以上とする。

5. その他

— 行政管理課長あいさつ —

委員長をはじめ委員の皆様には、今年度全6回にわたって審議いただきありがとうございます。本委員会の主旨でもありますとおり、市が実施している事業を評価し効率的かつ効果的な市政を推進していきたいと考えております。評価結果につきましては、次年度の予算等へ反映できるよう、担当課へ働き掛けるとともに、次年度の方向性を委員の皆様へお返ししたいと思いますので、来年度も引き続き、よろしくお願い申し上げます。

— 委員長あいさつ —

委員の皆様には、ご多忙の中、全6回にわたる委員会にご出席いただきありがとうございました。また、内容的に評価が難しいものもあったのではないかと思います。皆さんの

ご意見を出していただいたおかげで、各事業に対する本委員会としての意見をとりまとめることができました。

今年度の評価結果につきましては、来年度以降の事業に反映されるようお願いしてきました。来年度は、子育て世代を対象とした事業なども含めて評価に取り組んでいきたいと思っておりますので、来年度もよろしく願いいたします。

6. 閉会